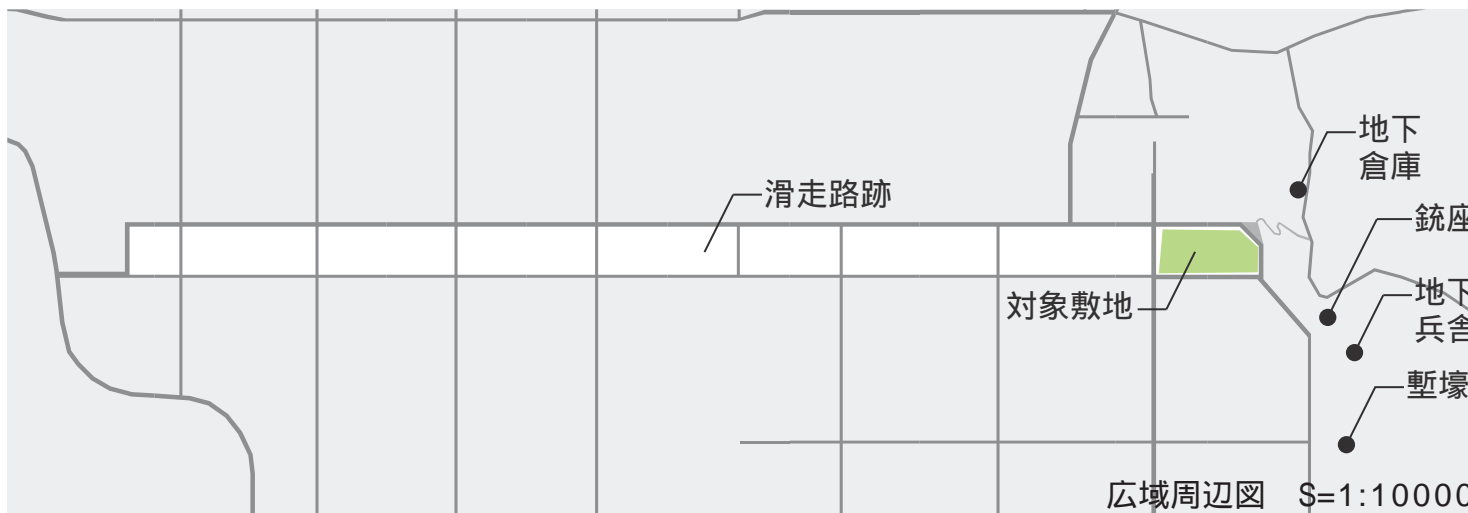




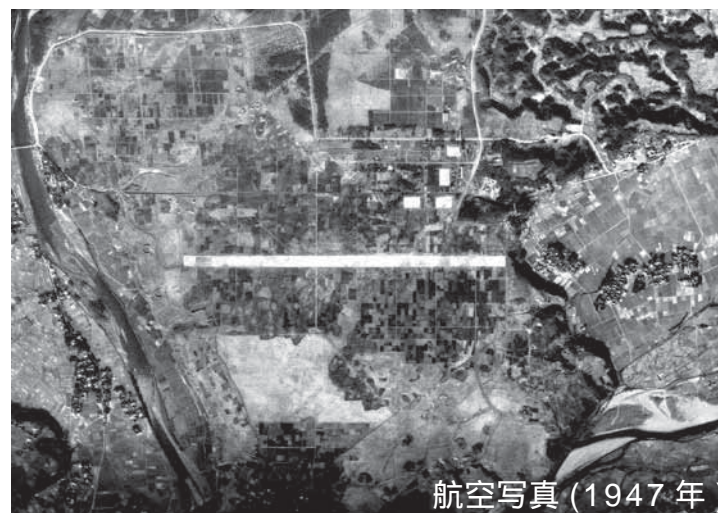
滑走路跡に対して正対する建築配置



建物周辺には地下壕などの遺構が残る



広域周辺図 S=1:10000



航空写真(1947年)



航空写真(2009年)

本計画はかつての戦争の歴史を伝える資料館としての性格に加え、地域に残る戦争遺構を巡るフィールドミュージアムの散策拠点ともなっています。そこで、全長2キロを超えるかつての飛行場滑走路跡に、飛行機の翼のように軽快な建築をつくることを意図しました。飛行機の骨組のように緻密で軽快な建築とするために、ラチス状に地場産の杉材の小径材を組み合わせ、軽やかで大らかな木質空間をつくりました。

西側には内部空間と同様の構造形式により大きく軒が張り出され、西日を遮蔽すると共に、縁側によって内外空間を連続させています。ここでは、105角、45×90といった小径部材が主となることで、重機を用いず人力のみでの建て方が可能となっています。また、同一の寸法や規格、納まりとし単純化することで、短工期・低コストの計画としています。

ラチス状に組み込まれた架構には照明設備や換気設備が組み込まれています。また、特に展示室においてラチス部分の開口を通して間接光が満たされ、歴史資料を保存しながら明るい内部空間をつくっています。

戦争遺物などの歴史資料の展示空間においては、戦争体験者の遺品などの資料が後に追加され、スペースが手狭になっていく例が多く見られます。本計画においては今後の増床も見越し、増築や別棟との接続が容易な木架構形式としています。



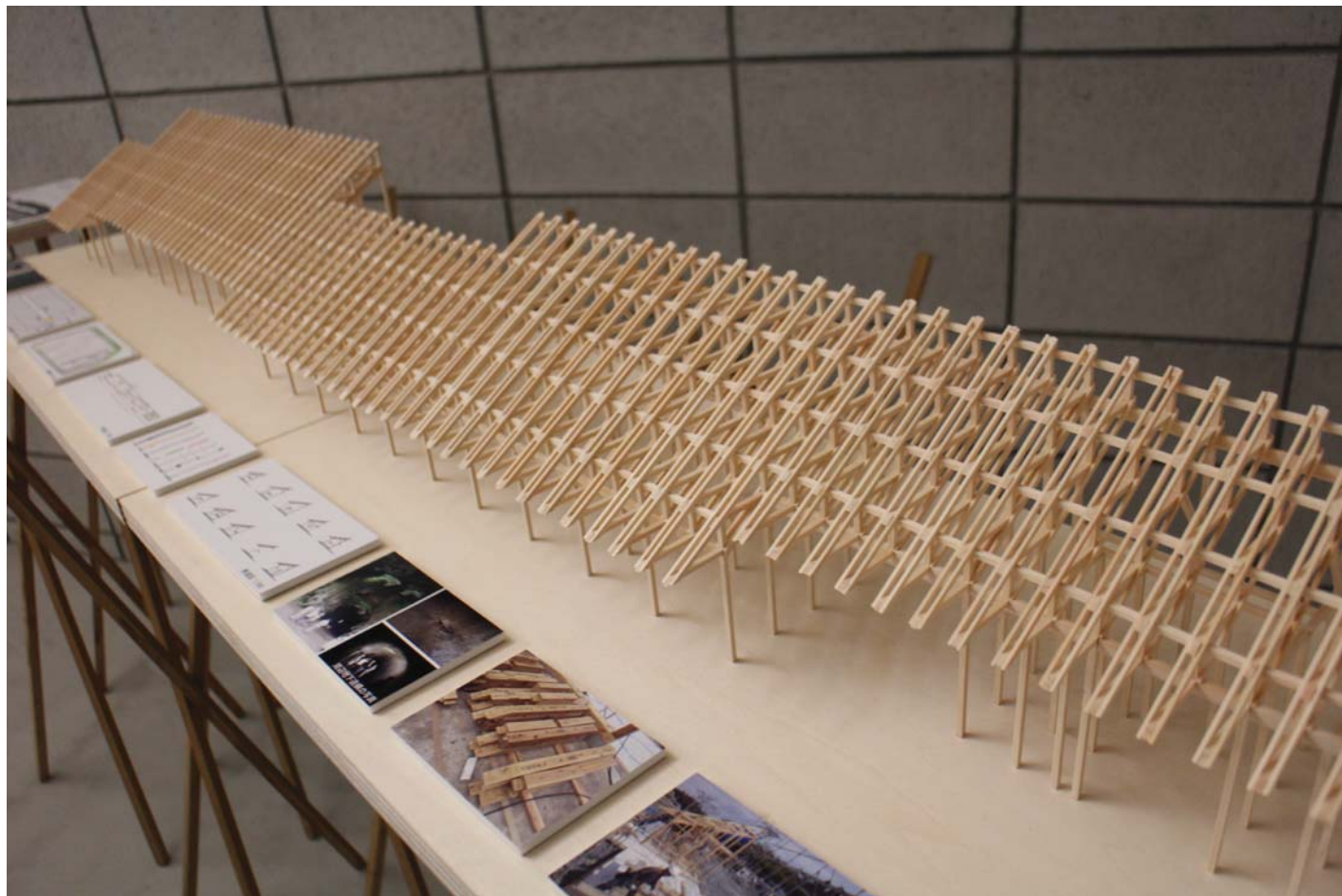
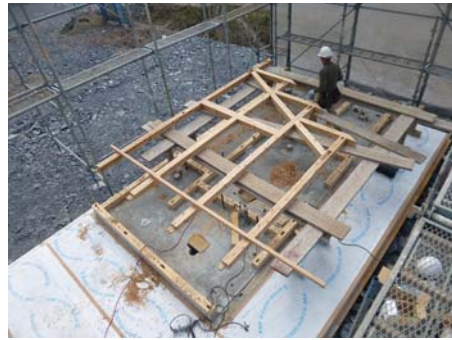
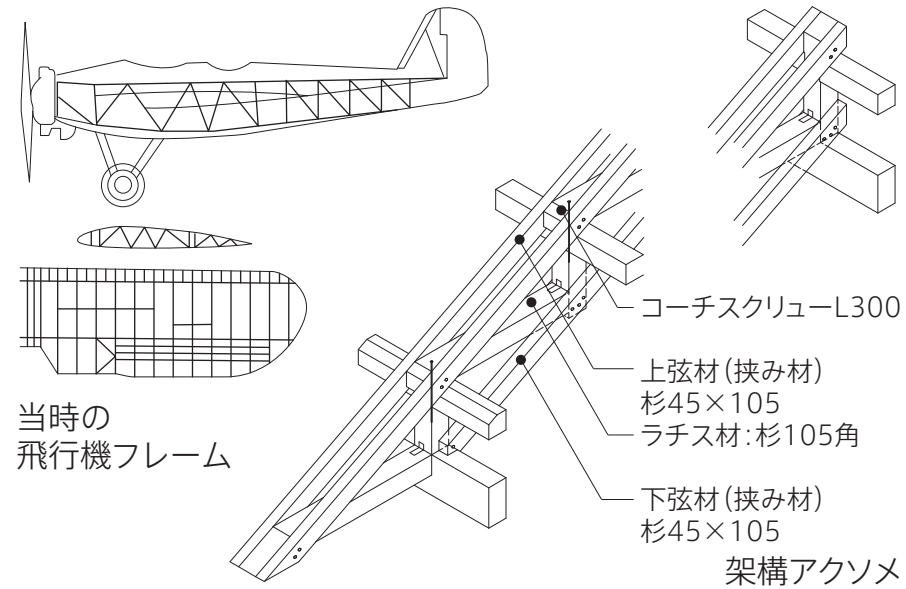
人吉航空隊の1940年頃の風景

1. 周辺環境を際立てる、飛行機の翼のように軽やかな建築

当該滑走路にてかつて飛び立っていた飛行機のイメージを参考に、翼のように伸びやかで軽やかな建築を計画します。建物の構造もシンプルで純粋な架構の反復とし、普遍的な建築を目指します。単純な計画は、場所の持つ歴史や特性、さらに自然の美しさを際立たせ、今後の用途や使われ方の変転に柔軟に対応が出来ると考えます。

同一モジュール規格材の連続

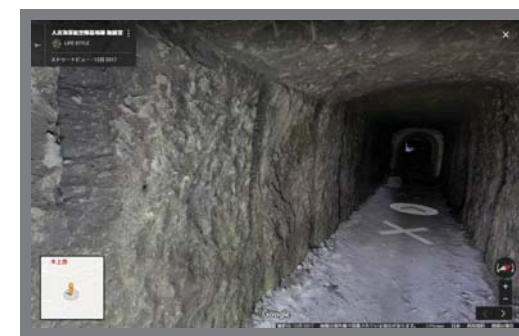
構造部材は熊本県産の杉小径材を用い、規格寸法による木材の最適な組み方を検討して進めました。45×90の規格サイズの上弦材、下弦材をラチス材に挟み込み@606mm、79列からなるモジュール化した架構となっています。



翼のような一枚屋根の木造架構

2. 地域社会の中で、柔軟に変容を続ける美術館のかたち

日本の美術館の歴史はまだ浅く、約130年程度しかありません。また、必ずしも適切な美術館のかたちを見付けられていないのではないかと考えます。本計画では、「フィールドミュージアム」「エコツーリズム」「VR」を取り入れた新しい美術館のかたちを構想し、日々アップデートを進めています。これからの美術館は、殿堂のように鎮座する建築ではなく、とりまく環境と共にあり、社会と共に育つ美術館がふさわしいと考えます。特に戦争美術館や歴史博物館においては、展示品だけでなく地域そのものを見せることや、教育的な場となることが求められます。その上、開館後に収蔵品がどんどん増えていくことが想定されるために、一つの建築が単品で完結せずに、絶えず増改築を想定することが求められると考えます。



美術館にて地下遺構の映像体験

今後、地下遺構のVRツアーも検討中



庁舎居住区隊門跡



発掘調査の様子



地下飛行機格納庫



松根油乾留工場跡



木上加茂神社



飛行場地区隊門



地下作戦室・無線室入口



地下魚雷調整場入口



地下魚雷調整場跡内部



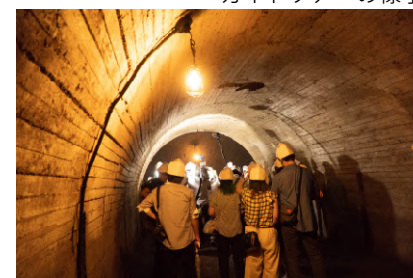
ガイドツアーの様子



ガイドツアーの様子



周辺遊歩道



地下魚雷調整場内部



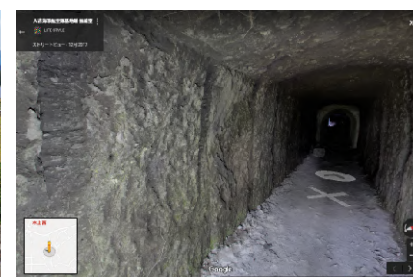
地下魚雷調整場内部



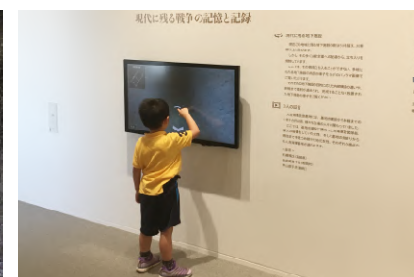
センダンの木



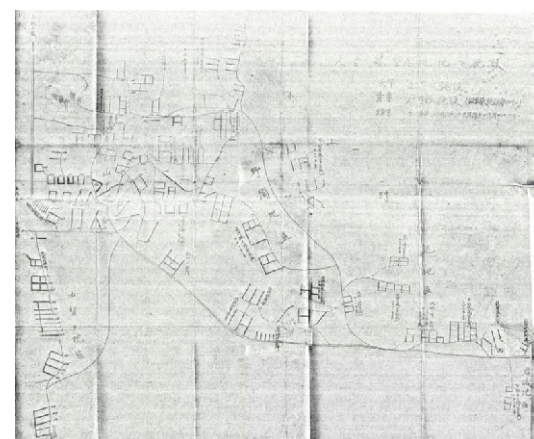
滑走路跡軸線



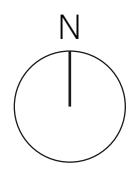
VRによる地下施設体験

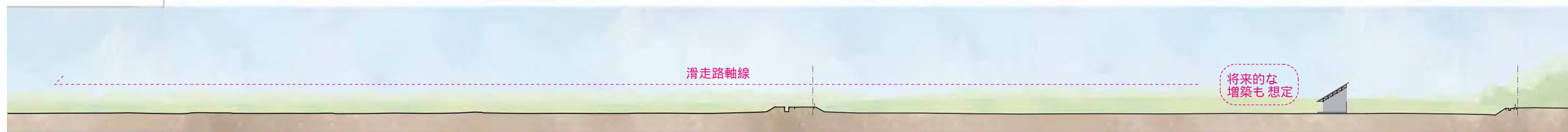
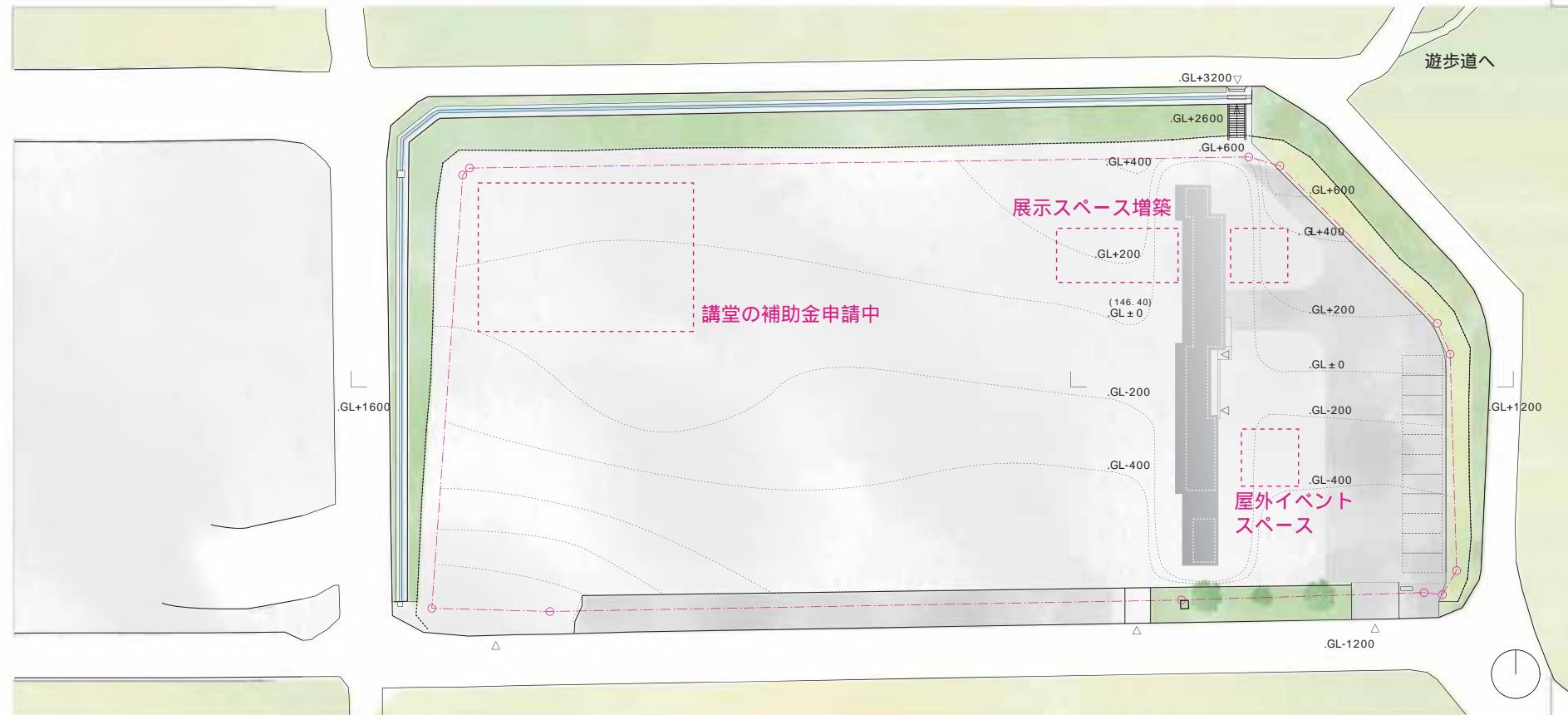
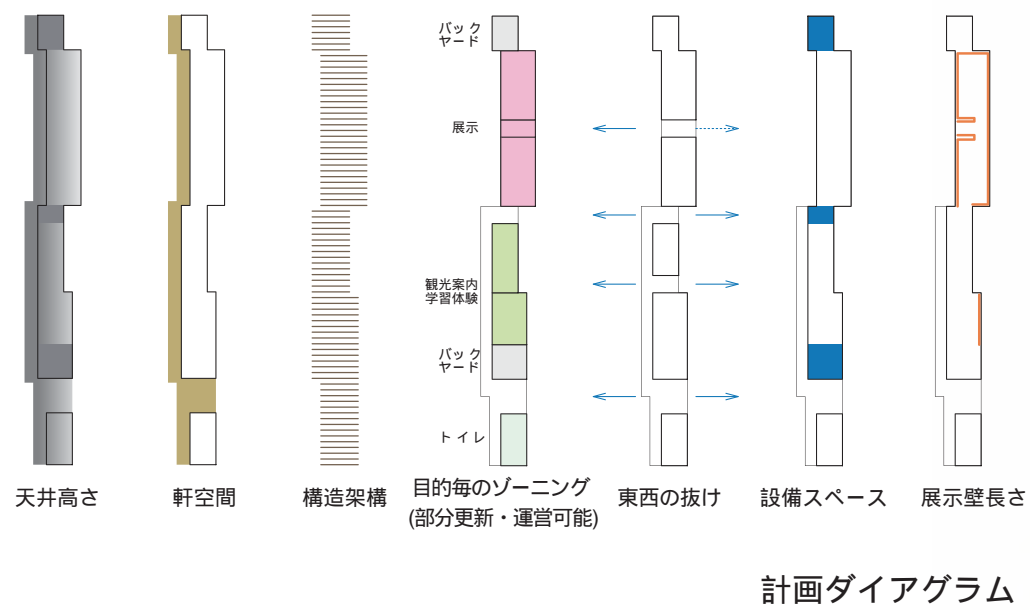


VRによる地下施設体験



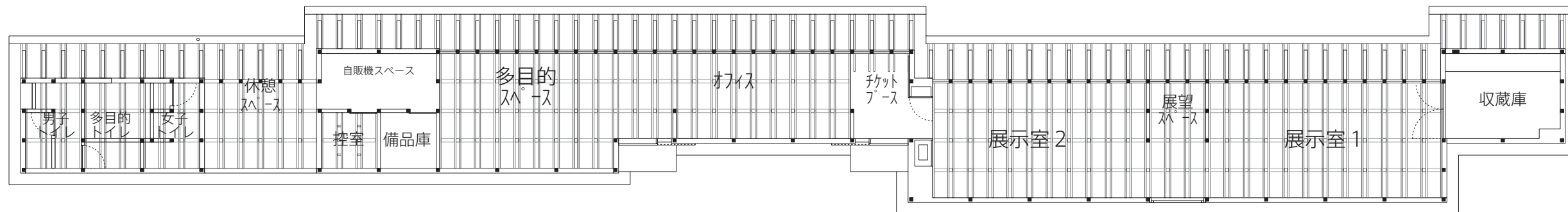
海軍が作成した地下施設地図



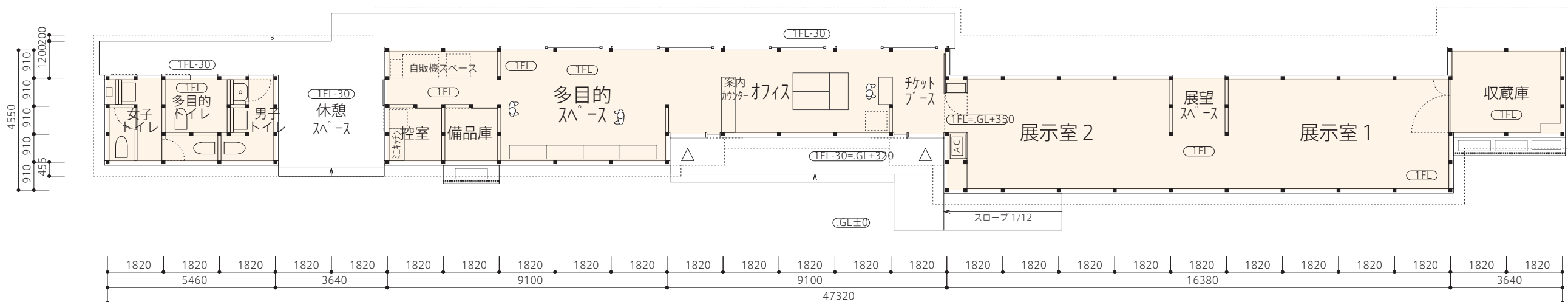


東西配置断面図 1/800





天井伏図 1/150



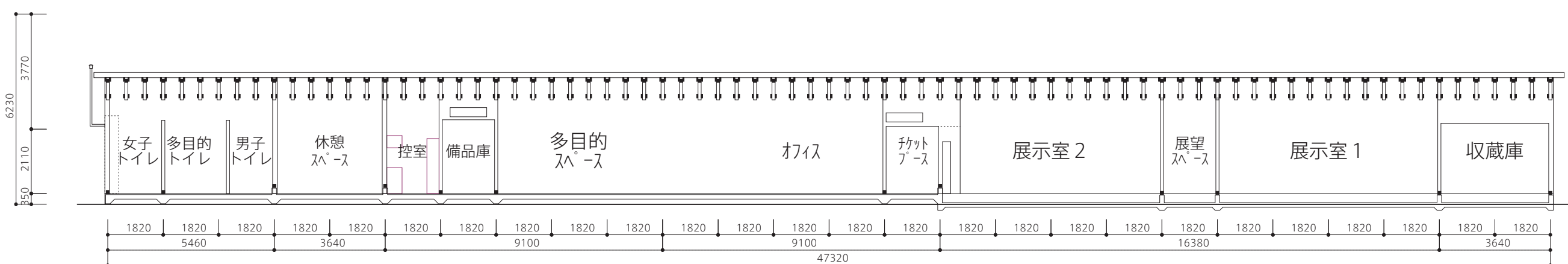
平面図 1/150



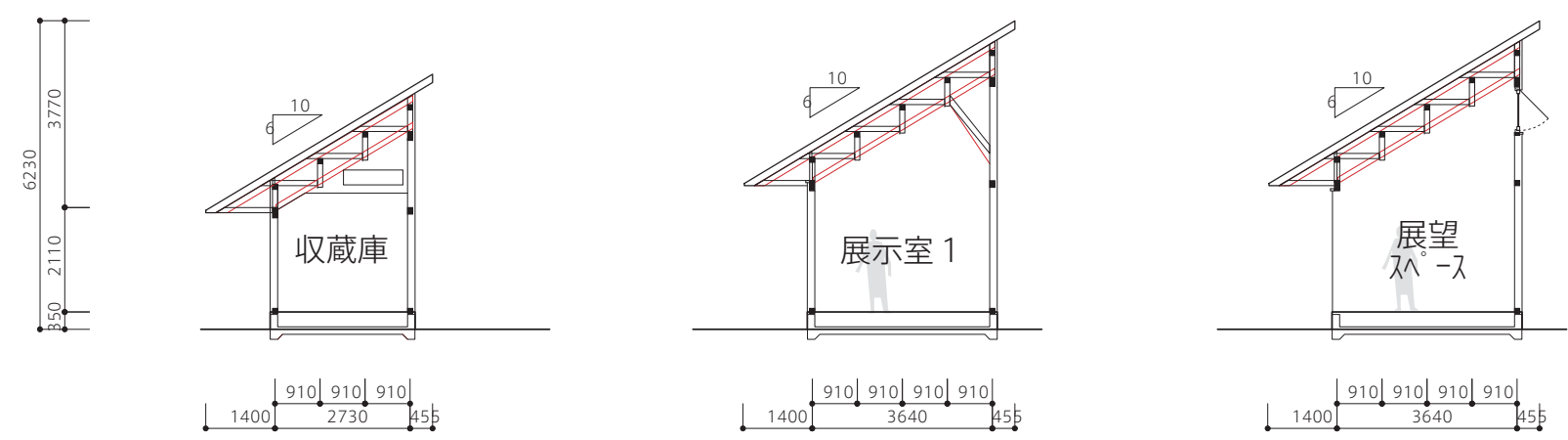
壁に沿い時系列毎に資料が並び、細長い展示室を一巡する動線となっている



オフィス・展示室と多目的室両方に目を配れる配置



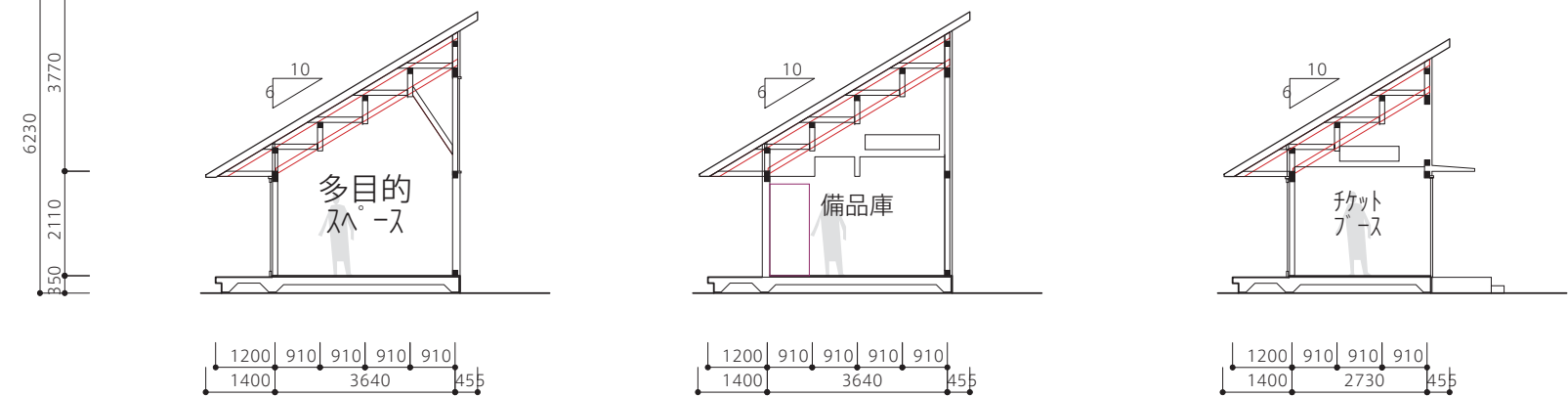
□長手断面図



□収蔵庫断面図

□展示室断面図

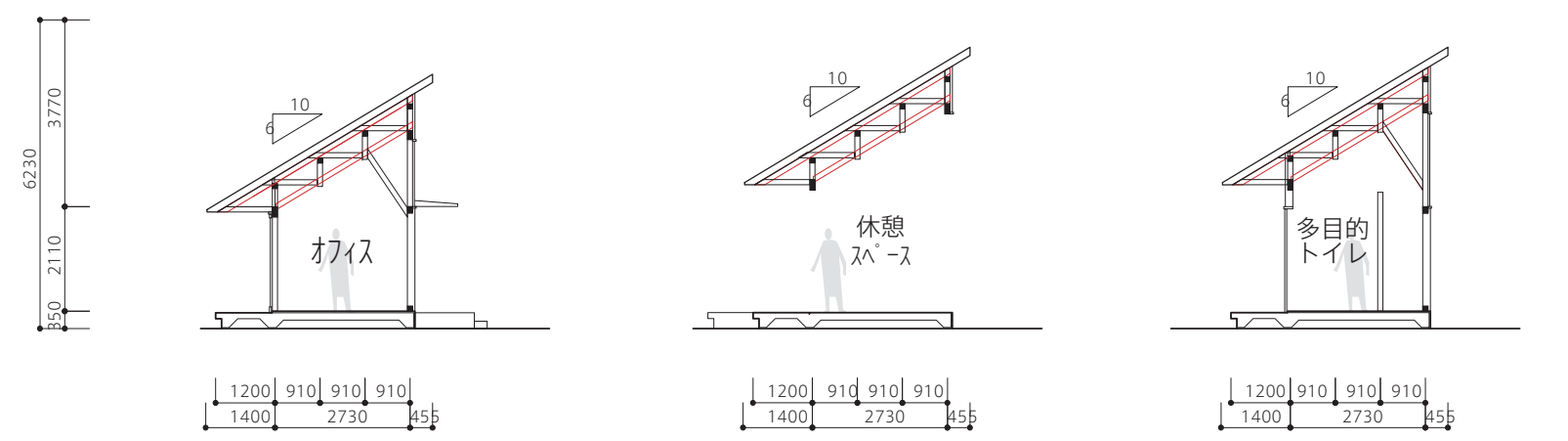
□展望スペース断面図



□多目的スペース断面図

□備品庫断面図

□チケットブース断面図

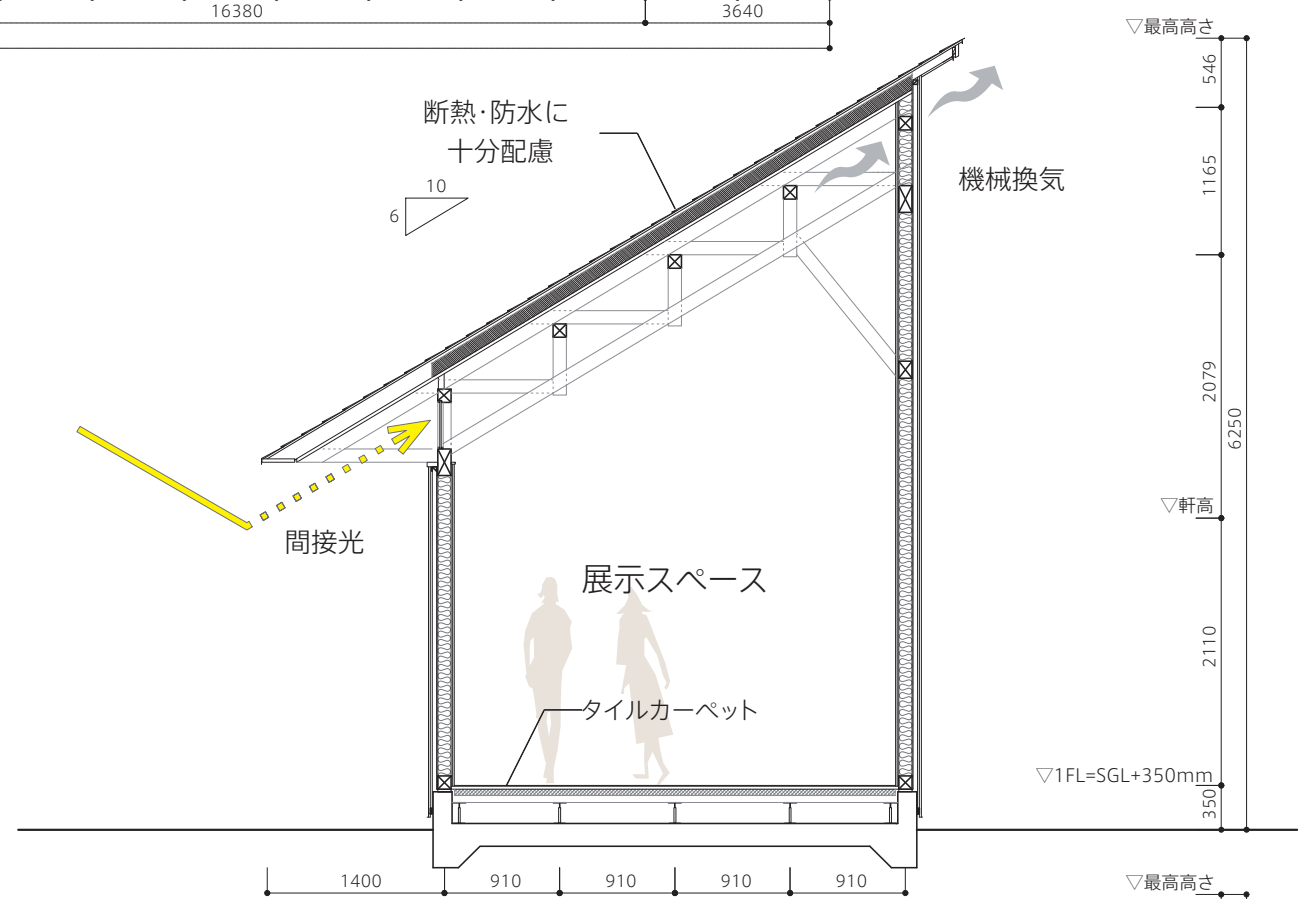


□オフィス断面図

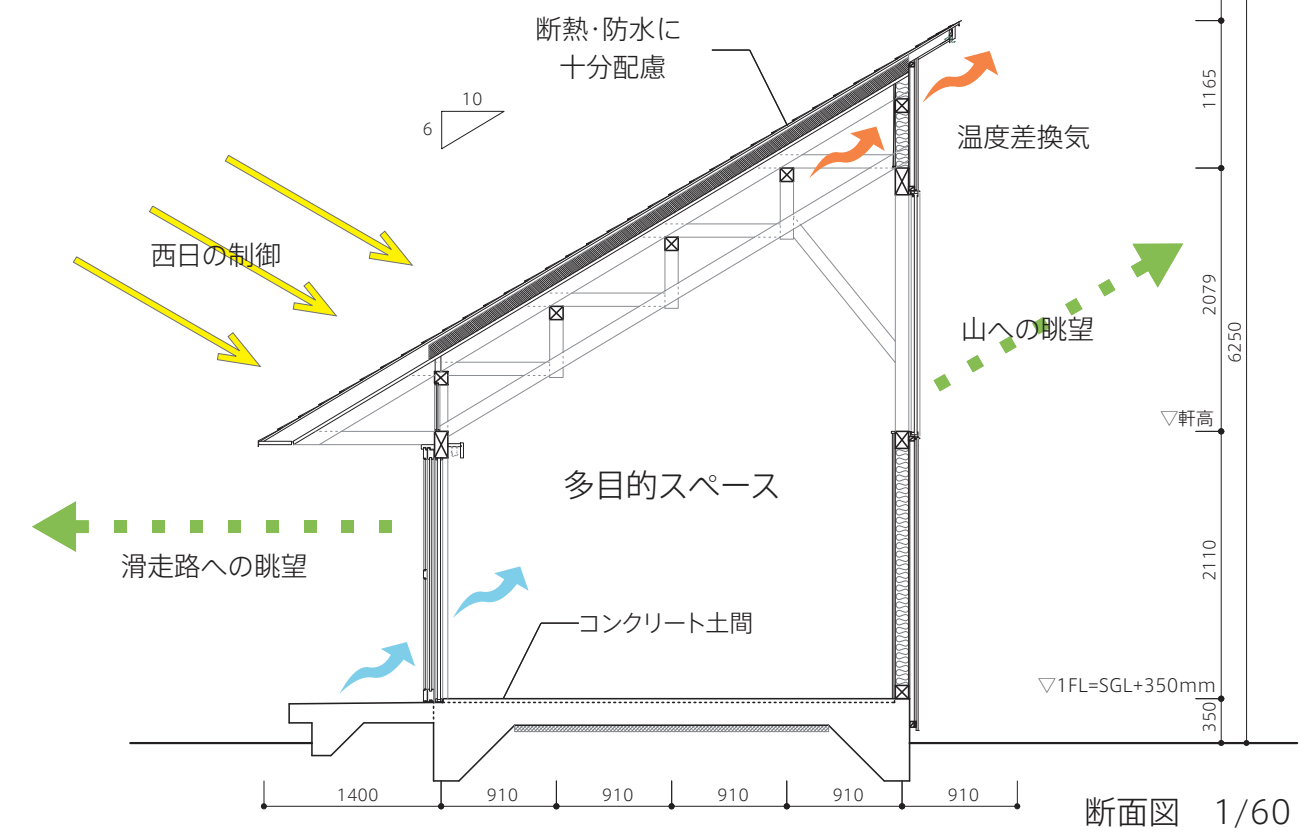
□休憩スペース断面図

□トイレ断面図

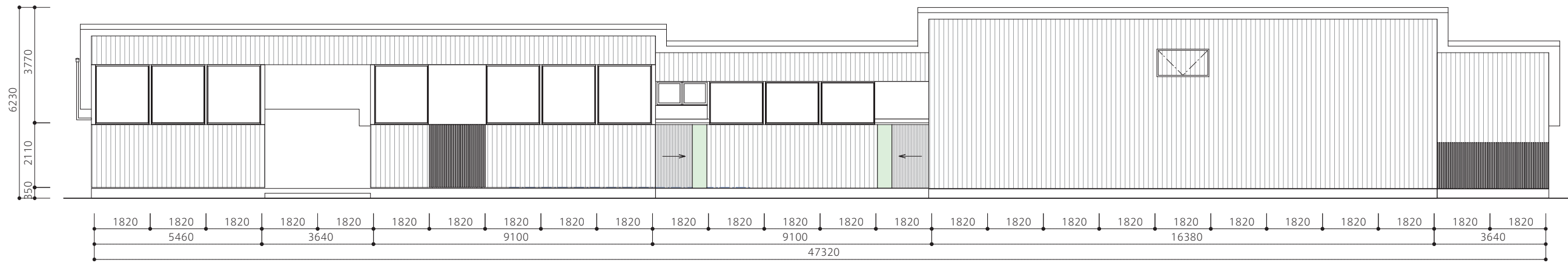
断面図 1/150



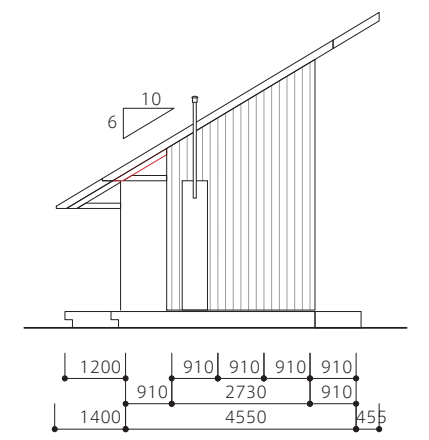
□断面図 1/60



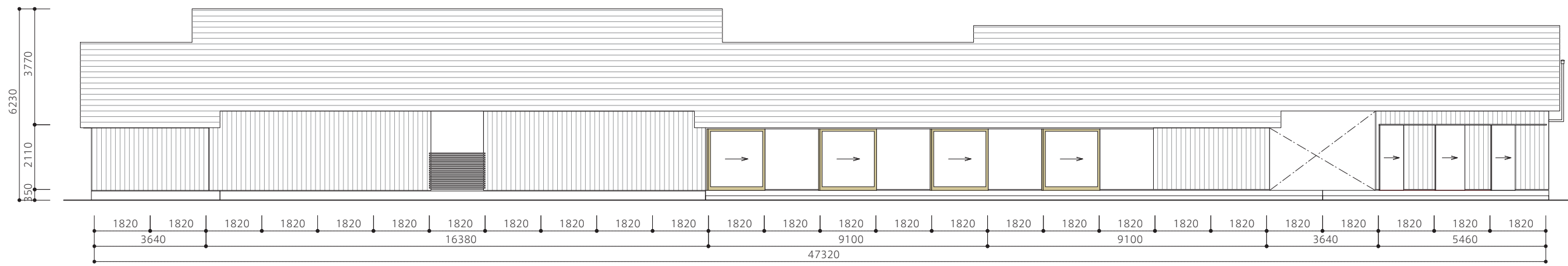
□断面図 1/60



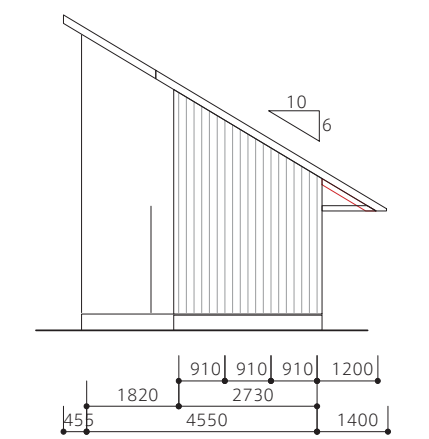
東側立面図 1/150



南側立面図 1/150



西側立面図 1/150



北側立面図 1/150



西側立面 多目的スペース・オフィスが内外に開く



東側ファサード ．ハイサイドライトが立面のリズムを作り、室内に柔らかい光を採り込む



多目的スペース。主要部は天井アラワシとし、架構をそのまま見せている



展示室。戦争当時の資料が並び、架構内に照明や換気設備などが組み込まれる



西側ファサード、飛行機の翼のように一枚屋根でできた外観



西側ファサード、雁行する平面形状により、内部の様々な天井高さが生まれる



西側立面夜景・開放的な多目的スペースと閉じられた展示スペース



1.4mの軒の出により、西日を軽減する



木架構が606ピッチで連なる



1.4mの軒空間が多目的スペースと連続する



休憩スペース・ツアーガイドをここで行う



桁上のハイサイドライトから間接光を採り込む

